

当院で行っている和痛分娩と無痛分娩のちがい

和痛分娩

子宮口周囲に行う局所麻酔で、陣痛の痛みそのものには効果はありません。そのため、効果がわかりにくく、個人差があります。

ですが、局所麻酔のため、トイレに行く、食事をするなどの生活行動に支障なく、自然分娩に近い状態で出産することができます。

補足

分娩が進行してくると痛みによる緊張で子宮口周囲がこわばってしまい、子宮口の開きを妨げてしまう可能性があります。和痛分娩を行い、子宮口周囲のこわばりを解いてあげることにより、分娩促進を図ることができます。

和痛分娩実施後、分娩進行があまりみられず、効果が減退してきた場合には再度同様の局所麻酔を行うことも可能です。当院では和痛分娩の実施料金を 10,000 円とし、効果が減退して再度行ったとしても追加料金は発生いたしません。

無痛分娩

こまかくがい
硬膜外麻酔という方法を使用します。（背骨の隙間から針を刺し、薬剤を注入する方法）陣痛の痛みが軽減する反面、お腹から下半身に効果がありますので、産後に麻酔が切れるまでは歩くことができなくなります。また麻酔中は胃腸の動きが鈍くなってしまい、嘔吐する可能性がありますので原則食事は禁止です。

メリットは痛みによる苦痛が少なく、分娩後の疲労が少ないことです。一方でいきむタイミングが分からなかったり、うまく力が入らなかったりしてしまうことで、通常よりも分娩所要時間が 1.5 倍に延長すると言われています。そのため、母の疲労増大、胎児の体力減退により、吸引分娩や帝王切開に切り替え、人工的に分娩を終了させる必要があるなどの医療行為が増える割合が高くなるのがデメリットです。

補足

“無痛”と表現しますが、当院では痛みを完全に取り除くわけではなく、陣痛がきたことがわかる程度にします。

陣痛が始まってからしばらくは経過観察をさせていただき、順調に進みだしたタイミングで無痛分娩を実施します。進み具合により個人差はありますが、おおよその時期としては子宮口が 4～5cm 開いたタイミングで無痛分娩を実施いたします。

食事の代わりに点滴を行い、栄養を補います。お手洗いに関しては、時間を決めて導尿（管を入れて排尿する方法、麻酔中のため痛みはほぼありません）を行います。

今月の赤ちゃん



妊娠 38 週 2 日の時のエコー写真です。もういつ産まれてもいい時期の写真でしたが、この約 3 週間後に無事産まれてきてくれました。この時期のエコーでは赤ちゃんが大きくなり、顔を映し出すのが難しいので、ここまできれいに見ることがあまりできません。出生後の顔は 10 月 5 日更新の Instagram に掲載しました。エコー通りのむちむちほっぺでかわいいですよ！



右の QR コードからぜひ見に行ってください！